

2011年3月12日
西東京本部 浜田山支部
畠山耕治

空手道について

「色帯の人は黒帯を目指し、黒帯をとった人はさらにその上を目指す。空手で最も大切なことは『続ける』ことです。」毎年開催される全国大会で二代目宗家よりいただくお言葉です。初段の審査を受けさせていただき、はじめて自分の黒帯を手にしたとき、ようやく1つの目標が叶ったと大きな達成感を得ると同時に「ここがスタートライン。これからが本当の自分との闘い」と強く実感致しました。次の目標は何か、何のために空手を続けるのか、自分の中で空手に対する目標や目的が明確に定まらなければ、どこかで挫折してしまうと感じたからです。家族全員で月心会にお世話になっていること、浜田山第一支部長として指導にあたらせていただいていることが大きな後押しとなり、次の明確な目標はすぐに定まりました。それは、「自分が定年退職したら家内とともに支部を開かせていただき、これまで月心会で学んだ武道に対する心構え、琉球空手の技を地域の方々に教え、広めること」です。その目的は「親子空手を通じて心身ともに健全な子供たちを育てていくこと」にあります。一見してとても大きな目標・目的にも思えますが、この目標こそが、宗家、二代目宗家をはじめ、いつも親身にご指導いただいている市川師範から学んだ私なりの「空手道」なのです。この目標の実現のためには、まず自分自身が空手を続け、技を磨き、そして心身ともに健全であり続けなければなりません。定年まであと17年。どこまで自分の技を磨けるか、それはとても大きなチャレンジですが、二段補、二段と一步一步、着実に上を目指していければと考えております。